



久しぶりに西の駐車場から池に上るとカモの仲間が飛び立って池の上を右往左往して着水しました。ボートがカモの群に近づいてきたのです。冬鳥のキンクロハジロでした。雑木林の紅葉はこれからという所ですが、部分的に赤色や黄色などに色づいてそれなりに楽しむことができました。

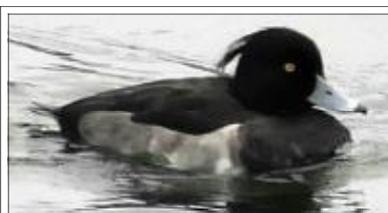
いろいろなもみじ葉



(上)左からサルマメ、ツタ、イソノキ

(下) ヤマハゼ、サルスベリ、ハギ

近くに寄ると葉脈や色の微妙な違いが見えて面白いです



キンクロハジロ
冬になると北



からやって来る 40 羽ほどの渡り鳥です。名前は、羽を広げると白帯が現れることから「羽白ガモ」、さらに目が金色、上面が黒色で、これらの特徴を合わせたてつuitaと思われる。



バッタ 2 種

持続する良好な草原にすむ
(上)背中が黒いセグロイナゴ、
(下)ショウリョウバッタに比べると小型で後脚が短いショウリョウバッタモドキです。



アキノキリンソウ

セイタカアワダチソウに似ていますが、花の数はずっと少ないです。日当たりの良い場所に生え、かつては土手などに見られた草ですが、少なくなっていました。



ヨモギエダシヤクの幼虫

セイタカアワダチソウにいました。頭部はまだら模様で体色は緑色から褐色のをよく見ますがこの個体は黒くなっていました。ヨモギに限らずさまざまな植物を食べます。

(成虫)→

開張 50 ミリほど





イスノキエダナガタマフシ

イスノフシアブラムシが作る5センチほどの虫瘤です。中にアブラムシがいて、壁に丸いくぼみがあり、羽を生やした虫が現れる頃、ここが外に開き飛んで行きます。



ヒゲナガヤチバエ

体長10ミリほど。田んぼや池にいるヒメモノアラガイに寄生して成長する寄生バエで、「ヤチ」は水辺を指します。触角は先が膨らんで長く特徴的な形をしています。



ツバメエダシャクの一種

ジョロウグモの巣に捕まっていた蛾です。羽の後ろにつきだした部分がある蛾で、黄土色の細い筋が見えますが、その部分が切れてなくなっているので名前の特定には至りませんでした。



秋の実 2種

上はムラサキシキブ直径2センチ前後で赤紫に熟し、下はシャシャンボ5センチ前後で黒く熟します。



ササキリ 体長15センチ前後

で、名前のごとくササの葉の上にいました。夏の初め頃、飴色と黒色のツートーンカラーのかわいい幼虫が見られます。



ホシホウジャクと**スズカアザミ**

秋、林縁に咲くアザミ(鈴鹿山脈以東の東海地方に見られる)の蜜を吸いに来たスズメガの仲間、長い口吻を伸ばしていました。

植物 アキノキリンソウ、ヒメジョオン、ノコンギク、キダチコンギク、スズカアザミ多数、セイトカアワダチソウ、ブタナ、カタバミ、アリアケスミレ閉鎖花はざる、イスタデ、コセンダングサ、イノコヅチ、アメリカイヌホオズキ、アキノゲシ、キツネノマゴ、マメアサガオ、メガルカヤ、ノガリヤス、ツワブキ、*イヌマキ、ビワ、チャ、アジサイ一輪、ジュウガツザクラ、シキザクラ、実(シャシャンボ、ムラサキシキブ、マメガキ、イロハモミジ、シラカシとウバメガシ、ソヨゴ、ヒノキ、ヤマノイモ、オニドコロ、カラスウリ等)、**昆虫** 蝶(キタキチョウ、ウラナミジジミ)、蛾(シロオビノメイガ、ホシホウジャク、蜘蛛の巣に捕らえられたツバメエダシャクの一種、オオスカシバ幼虫、ヨモギエダシャク幼虫)、バッタ類(ショウリョウバッタモドキ、セスジツユムシ、ホシササキリ、ササキリ雌、ツチイナゴ、コバネイナゴ、セグロイナゴ、ツユムシ類幼虫、ムネアカハラビロカマキリ)、カメムシ類(チュウゴクアミガサハゴロモ産卵痕と脱皮殻、イチモンジカメムシ幼虫、ムネアカアワフキ巢)、甲虫(ナナホシテントウ、トクリバチ巢、蜂(オオスズメバチ、コマユバチの一種繭殻)、蛇・蠅(オオハナアブ、キゴシハナアブ、コウカアブ、ヒゲナガヤチバエ、ツマグロキンバエ)、**蜘蛛** ジョロウグモ雌雄と卵のう、ネコハグモ巢、アシナガグモ幼体、ヤチグモの一種、**鳥** スズメ、ハシボソガラス、メジロ、モズ、キンクロハジロ群、ホシハジロ、カンムリカイツブリ、オオバン、カワウ、**その他** 笹藪の獣道、虫瘤(ヨモギキワタフシ、ヨモギシントメフシ、イスノエダナガタマフシ、イスノキハタマフシ)、茸(サルノコシカケの一種、*ナラタケ)、シラカシこぶ病 *観察会前に記録 **次回:12月12日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円**